

# ラオスの子ども通信 17号

(2000年7月発行)



4月23日の日曜日、東京ガス南部支店大田支社にて、恒例のラオスの正月パーティ「サバイディピーマイ」を開催。180人もの参加者で大盛況となりました。(12ページをご覧ください)

## 2000年総会報告特集号

### 「その次のASPB」に向けて

ASPBは今、第三のステージを迎えています。日本の絵本や学用品を寄贈した80年代を第一ステージとすると、90年代は第二ステージとして「ラオス人作家の本づくり」「学校への図書普及・読書推進」「子ども文化センターでの自己表現の機会づくり」を進めてきました。「本が無いから本を送る」という素朴な動機に始まった活動は、絵本(識字)をコアに18年間試行錯誤を続け、川上から川下へという流れを作り出す運動になってきています。すなわち、「作家を育て」「本を普及し」「学校の教員の図書への認識を高め」「識字を通して子どもたちが自らを豊かに表現していく」運動へと。そして2000年を迎えました。私たちとラオスのカウンターパートとの取り組みは、徐々に流れを太くしています。今、私たちに求められているこ

とは大きく、2つあります。支援者とカウンターパートに対して、より責任ある対応をとること。そして各事業のラオスの人々による自立化/自働化を支援することです。それを全うするため、これまでの「片手間ボランティア」ができることをするという活動の姿勢を変え、何をすべきかをより明確にし、それを着実に執行できる組織体制をつくることとしました。これが2000年からの第三ステージです。東京、ラオスともにスタッフを強化し、マネジメント能力を高め、事業の調査・評価能力の修得など、とりわけ能力開発が大きなテーマとなっています。そして極めて現実的な課題は、これらを実行するための自主財源の確保です。どうぞ、ASPBの第三ステージをご支援ください。

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会は、5月27日、ライフコミュニティ西馬込にて2000年度総会を開催しました。約25人の参加を得て、1999年度の活動報告と会計報告、2000年度の活動計画と予算および新たな人事が承認されました。

## 1999年の活動

### 出版プロジェクト

1999年、ASPBは次の5点を出版しました。  
作家の裾野を広げるため、ラオスの作家と日本の絵本作家をアドバイザーに、作家の育成を図っています。その趣旨で「民話絵本コンクール」を企画しました(P12参照)。  
ASPBのヴィエンチャン事務所には様々な作品が持ち込まれ、スポンサーがつけば出版作業に取りかかります。また、図書を配布した学校へのフォ

ローの調査などを通して、人気の高い作品の再版を進めています。本づくりを巡って、質か量かの議論が繰り返されていますが、私たちは質を確保しつつ量の拡大を目指しています。  
手直しのため、前年度の出版がずれ込み、指定募金による創作絵本の出版は繰り延べとなりました。99年度指定募金85口は2000年度分と合わせて出版費用とします。

■再版 子どもたちに人気の高い定番の昔話を再版。挿し絵は新人を起用しました。



『クンルーとナンウア』  
著者：ウティン・ブンヤウオン  
部数：5,000部  
支援：伊藤忠記念財団



『良いことを言えば役に立つ』  
著者：ウティン・ブンヤウオン  
部数：4,000部  
支援：伊藤忠記念財団



『孤児と小さいおばけ』  
著者：ドゥアンドゥアン  
部数：5,000部  
支援：キャノン株式会社

■翻訳 日本の1981年のベストセラー。

■新作 新人を育てていく機会に。



『窓ぎわのトットちゃん』  
著者：黒柳徹子  
訳：ドゥアンドゥアン  
協力：黒柳徹子、いわさきちひろ美術館  
部数：4,400部  
支援：石原静子、和光大学、  
和光学園教職員、学生有志

ドゥアンドゥアンさんは10年ほど前、タイ語版を読んで感動し、出版に至りました。



『トーホア(雨漏り)』  
著者：オートン  
部数：5,000部  
支援：キャノン株式会社

日本では「ふるやのもり」として知られる昔話。絵本作家わかやまけんさんのアドバイスをいただいて制作しました。

NOW PRINTING

『文字絵本 3』  
文章：ドゥアンドゥアン  
絵：一般公募(応募総数42人、306点)  
支援：キャノン株式会社

作品の選考、ブックデザインにわかやまけんさん、グラフィックデザイナーの大竹雄介さんの協力をいただきました。

## 図書箱・図書袋プロジェクト

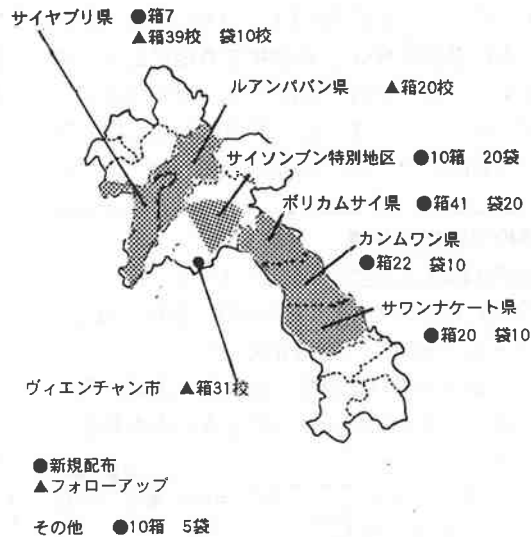
約170冊の本を収めて学校に届け、図書館として機能させる移動図書箱。「全国すべての小学校に図書箱を」というラオス政府のプロジェクトにASPBは92年より協力しています。95年になって、重く、運びにくい木製の箱の改良型として「図書袋」を開発。箱は1校1箱が基本、袋は約80冊入りなので1校2袋としてきました。

99年は175校について、箱・袋の製作、図書の購入を行い、合計30,450冊を配布。教員へのセミナーを行いました。すでに配布した学校へのフォローアップを重視し、100校に対して各165冊ずつ補充しました。

ASPBは、92年以来通算して785箱と600袋を1,200校の小中学校に配布しています。

プロジェクト支援：郵政省国際ボランティア財団、国際開発救援財団

指定募金：20口



## 子ども文化センター(CCC)

ラオスの学校教育でほとんど行われない図画工作・音楽などの情操教育や伝統音楽・舞踊を習うことができる教室であり、子どものための地域の図書室であり、放課後子どもたちが過ごす児童館として、ASPBと情報文化省の発案で1994年に「子ども文化センター(CCC)」を開設しました。現在、ヴィエンチャン、ポリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバンの4地域で、地元行政機関が運営し、ASPBが支援しています。それまで、このような施設はラオスには存在せず、手探りで動きだしましたが、今や高校生となったCCCのOBたちのボランティアも生まれ、様々な地域で同様の活動が始まっています。先行CCCには行政関係の見学者が訪れるなど、全国的に広まってきています。

CCCの趣旨は、「子どもたち誰もが自己表現の力を伸ばせる場」にあります。情操教育がなかなか理解されず、一部の子のお稽古ごとと発表の場となってしまう心配も指摘されています。現在の課題は、理念の共有化、講師・職員のレベルアップ、運営能力の向上、自立への戦略作りと難題が横たわっています。

プロジェクト支援：郵政省国際ボランティア財団、株式会社ミクプランニング

指定募金：15口

### ■活動評価会議を開催■

8月11、12日、4つのCCCとASPBの支援によらずに新規開設したCCC、情報文化省など約40人と東京から野口と赤井が参加して、活動評価会議を開きました。

報告では、各CCCでは各種教室やスポーツなど活動が積極的に展開され、広報誌も作成し、地域での評価を得ていること、その一方で、施設、運営資金、スタッフの経験が不十分である点が指摘され、支援要請を受けました。特に図書室は蔵書不足のため不活発で、読み聞かせなども十分ではなくなっています。

ASPBが近年呼びかけている、各CCCの将来的な経済的自立についても話し合われました。サイヤブリCCCでは干しバナナ販売など、自己資金作りにも積極的に取り組んでいます。

今後CCC活動を発展させていくためには、個々のCCCの問題を議論するだけでなく、ラオスの子どもたちのために何に重点をおくべきかという総合的な発想の必要性が指摘されました。活動経験が豊富なサイヤブリのCCCが活動の訓練センターとしての役割を果たし、情報文化省直轄の中央CCCが全体の調整をおこなうことで合意しました。

## 学校図書室整備プロジェクト

小・中・高校の空き教室を図書室にするプロジェクトです。1995年にヴィエンチャン事務所のラオス人スタッフの発案で始まり、「Hak Am(ハックアーン。愛読の意味)」の愛称で各地に広がっています。15万円程度で開設でき、1999年までに42校がオープンしました。開設に際しては、学校から要請を受けるとASPBのスタッフがその学

校に向いて、仕組みなどを説明したうえで、運営への意欲などを確認します。それから本棚、イス、机、本を届け、先生には図書室運営や読書推進のノウハウを伝える研修を行っています。本を読むだけでなく、図画工作なども行うのがハックアーンの特徴で、画材も届けています。プロジェクト支援：外務省NGO事業補助金ほか

### ■8校で新規開設■

1999年は8校の図書室を開設しました。小学校には195タイトルで595冊、高校には192タイトル、606冊の図書を含めました。ラオス語の本だけでは数が足りないのので、タイ語の本、ラオス語訳を貼った日本の絵本も混ぜています。

指定募金：東京海上火災保険、富士ゼックス、村井浩、若林地所

	小学校	中学校	高校	その他
95年	5			
96	7	7		
97	3	3		
98	3	1		3
99	5	1*	2	

\*中高一貫校



### ■トンサーナン村図書館を開設■

7月18日、34番目の図書室がヴィエンチャン市トンサーナン村(地区)にオープンしました。個人の敷地に立地し、地域の人々を対象とする公共図書館の設立で、おそらくラオス初の試み。オープン式には、図書館建設資金を支援していただいた株式会社興伸の小野伸太郎さんと事務局の森、赤井が参加しました。



### ■既設校に図書を補充■

1995年から1998年までに開設した34か所の図書室とASPBヴィエンチャン事務所内の子ども文庫に、1か所約150冊の図書と補修材料を補充しました。これらは7月に開催した「全国図書館セミナー」に集まった各校の担当者に持ち帰ってもらいました。

### ■全国図書館セミナーを開催■

7月19～24日、ASPBが呼びかけ、ラオス国立図書館と共催でセミナーを開催しました。ハックアーン実施校33校、子ども文化センター、同様の子ども向けの図書館活動を行っているSVA(シャンティ国際ボランティア会)やSVAが支援した学校なども参加。開会・閉会式には情報文化省、教育省から副大臣、局長も出席し、「全国子ども向け図書館会議」となりました。

各図書室の活動報告、問題点の洗い出し、読書・図書館・紙芝居などの意味や価値についての講義、本の補修や読み聞かせなどを行い、今後の読書推進運動に向けた地域ごとの行動計画を策定。東京からは森と赤井が参加しました。これまでの活動がここに来て「点から面へ」と動くダイナミズムを感じさせました。その中で、先生の意欲を引き出すことの重要性が一層鮮明になってきました。

ハックアーンが相互に連携し、図書箱・図書袋の設置校も巻き込み、それらの学校のキーステーションとして子ども文化センターの図書室が活躍することで、地域に根差した図書館活動が可能になってきます。

## 人材育成・交流

### ■絵本・紙芝居づくりセミナー■

5月7～28日、紙芝居・絵本作家のやべみつりさんと長野ヒデ子さん、そして造形に幅広く携わっている下中菜穂さんの3人を講師とする専門家派遣セミナーを行いました。

「絵本・紙芝居の冒険ーアジアの名作をラオスから」と題してヴィエンチャンで3日間の絵本紙芝居づくりセミナーを開催。作家、幼稚園の先生、政府の出版担当官、画家志望者、学生など30人が参加。互いに様々な作品について意見を述べあい、自らの創作活動について語る中から、いい作品づくりに大切なことは何かについて掘り下げ、ワークショップを行いました。

ルアンパバンでは、サイヤプリからの参加者とともに、教員向け紙芝居づくりセミナーを開催。初めて作る小学校の先生も多い中、紙芝居の特色を活かした作品作りを学びました。

また子どもを対象に、泥絵の具で果物や木の実



を描いたり、木の葉で魚を描いたり、身の回りの物でおもちゃをつくるワークショップを実施。泥絵の具や葉の絵は、グループで大きな紙に作品をつくり、CCCの外壁に貼りました。ポリカムサイCCCやヴィエンチャン市内のノンニエン小学校では、子どもたちと紙芝居やおもちゃ作り、粘土細工などをした他、ピー（ラオスの人々が信仰している精霊）を描き、迫力ある作品となり、日本でも展示されました。

### ■現地スタッフ日本研修■

11月6～21日、ラオス事務所の責任者ソンベット、子ども文庫担当のバンオーン、サイヤプリCCC館長のプアチャンの3人が来日。図書館、児童館、文庫、学校などの現場視察を中心に2週間の研修を行いました。とくに母親の意志とボランティアに支えられる「文庫」活動は大きな励ましとなりました。また、日本では絵本作家も施設職員も、「子どもたちにとって何が一番か」を常に意識しているという話に、スタッフたちは心を動かされ、活動への意欲を新たにしようです。同行した東京のスタッフにとっても大いに研修の場となりました。

また、日本が抱える問題を見聞きし、「ラオスのよいところ」を再発見。それを大事にしながら「日本のよいところ」も取り入れたいという思いを胸にスタッフたちは帰国しました。この研修は日本財団の助成を受けました。



東京子ども図書館にて、松岡享子さんと。

### ■石原奨学金の運営■

ラオスの教員養成学校の学生を対象とする、和光大学教授石原静子さんによる奨学金精度の運営を試験的に開始しました。99年は、卒業年次生40名に約6か月分を支給。卒業後、34名が実際に教員になりました。

### ■日本青年会議所 東海GTSプロジェクト■

日本青年会議所東海地区が企画運営するスタディツアー「グローバ尔特レーニングスクール(GTS)」に協力し、学校の補修プログラムの調整などを実施。チャンタソンが同行しました。

### ■会の運営■

ヴィエンチャン、東京ともに日々の作業量が増え、それぞれスタッフの強化が急務となっています。また、プロジェクト運営の専門能力とマネジメント能力も求められています。東京スタッフの人件費はアーユス=仏教国際協力ネットワークより助成を受けています。ボランティアは新しい顔ぶれが増え、ラオス人留学生とのつながりも進んできました。絵本にラオス語訳を貼る「絵本2000冊運動」が99年からスタートしました。

# 1999年度会計報告

1999年度 ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会収支計算書(1999.1.1~1999.12.31)

■前期より繰越	7,000,000 円	8,125,603 円	プロジェクト準備金
■収入の部	予算	決算	摘要
一般寄付	3,700,000 円	6,343,963 円	延べ459件(10万円以上の寄付者は以下の通りです。) 出雲大社教務本庁・豊島福祉基金・南 康雄 ラオス会(相本真理子)・自治労町田市職員労働組合 国際ロータリー第2590地区国際奉仕員会・日産自動車(株) 国際ソブチミスト出雲・「チャンタンの受賞を祝う会」(敬
プロジェクト奨助金 助成金・指定寄付(団体)	15,500,000 円	17,323,340 円	郵政省国際ボランティア貯金・アユス(仏教国際協力ネットワ 外務省NGO事業補助金・キヤノン(株)・日本財団 国際開発救援財団(株)シブランニク・地球市民財団 絵本印刷(87口)・子ども文化センター(15口) 図書袋(20口)・紙芝居(1口)・環境の絵本出版(1件) 学校図書室(若林地所・村井 浩・富士セロック隣・ 東京海上火災保険隣) 石原静子奨学金(教員養成学校生徒)
指定寄付(個人・団体)		1,169,379 円	校舎補修プロジェクト 3件 東京にて募金 3冊1組(送料共) 会出版図書有償譲り渡し(ラオス事務所扱い) 各種イベント参加費及び売上等
奨学金 特別プロジェクト		700,000 円	絵本がき 物品売り上げなど 預金受取利息(東京、ラオス)等 現地図書室利用者スタンプ代・両替端数残金等
日本青年会議所東海GTSプロジェクト 特定小学校図書教材寄付		2,166,412 円 55,000 円	
外貨募金		18,093 円	
紙芝居売上		398,790 円	
出版配布図書譲渡		347,672 円	
イベント収入	3,300,000 円	2,082,627 円	
雑収入	450,000 円		
物品売上		220,647 円	
預金受取利息		101,042 円	
その他		5,861 円	
収入合計	22,950,000 円	30,932,826 円	
■支出の部	予算	決算	
1.プロジェクト経費			
●絵本1冊運動			
<出版プロジェクト>			
創作絵本 出版費	2,160,000 円	907,166 円	2点 8,000冊
再版図書 出版費	1,440,000 円	1,174,002 円	押し絵改訂版、3点出版 合計14,000冊
文字絵本3 編集費・印刷費	1,020,000 円	47,422 円	2000年出版予定
「窓ぎわのトットちゃん」出版費	840,000 円	994,686 円	ラオス語版 4,400冊出版
紙芝居製作費		7,000 円	紙芝居カラーコピー版製作費
雑誌記事掲載費		3,159 円	子ども向け絵本に関するコラム
環境教育の絵本 出版費	600,000 円		2000年出版予定
出版プロジェクト 計	6,060,000 円	3,133,435 円	
<絵本作家育成プロジェクト>			
絵本作家育成プロジェクト	1,726,800 円		本プロジェクトは2000年に実施
<移動図書箱・図書袋 >			
図書箱製作費	900,000 円	1,803,367 円	箱制作費、箱詰め図書代(174冊) 105箱
図書袋製作費	960,000 円	1,287,689 円	袋制作費、袋詰め図書代(2袋で174冊)130袋
配布セミナー費	288,000 円	295,023 円	4県で実施 合計170校へ箱袋を配布
フォローアップ費	504,000 円	80,369 円	3県で実施 合計100校へ図書を補充
補充図書購入費	1,200,000 円	1,527,021 円	100校分の補充図書購入(1ヶ所165冊)
図書箱・図書袋プロジェクト計	3,852,000 円	4,993,469 円	
<統括管理>			
通信費	180,000 円	217,935 円	当プロジェクト該当分(全通信費の33%)
現地コーディネーター人件費	144,000 円	113,690 円	現地出版専門家トバイス 1年間
現地プロジェクトスタッフ人件費	144,000 円	193,467 円	現地プロジェクト調整員兼会計 1名
調査・調整員派遣費	540,000 円	721,660 円	東京メンバー2回 各1名
絵本1冊運動統括管理 計	1,008,000 円	1,246,752 円	

●子ども文化センター(CCC)				
3県CCC 運営費	1,699,200 円	2,096,537 円	講師・スタッフ人件費 教材費・事務経費・補修費など 3県(サイヤブリー・ホリカムサイ・ルアンパハン)	
ヴィエンチャンCCC 運営費	403,200 円	356,855 円	ヴィエンチャンCCC講師人件費・教材費等	
現地プロジェクトスタッフ人件費	86,400 円	181,336 円	現地プロジェクト調整員 1名	
補充図書購入費		181,230 円	4つの各CCCへ補充図書購入 計約1,200冊	
CCC評価会議開催費		95,899 円	8月に開催(参加者人件費・交通費・会場費)	
調査・調整員派遣費	540,000 円	351,041 円	東京メンバー2回(5月、8月) 各1名	
ヴィエンチャン市CCC建設調査費		1,096,244 円	専門家2回(98年12月、99年3月) 各1名	
通信費	180,000 円	99,061 円	当プロジェクト該当分(全通信費の15%)	
子ども文化センター(CCC) 計	2,908,800 円	4,458,203 円		

●子ども文庫 学校図書室プロジェクト				
整備建設費	1,680,000 円	516,340 円	地域図書館建設費 昨年度より継続分	
新規図書室開設費	612,000 円	854,708 円	本棚・机・椅子・図書教材購入・セミナー費(8校分)	
図書教材購入費(フォロー)	936,000 円	1,059,089 円	図書教材補充 34ヶ所(絵本翻訳貼付費含む)	
図書室スタッフ研修開催費	240,000 円	294,422 円	学校図書室評価会議開催費	
子ども文庫管理スタッフ人件費	196,800 円	203,256 円	現地プロジェクト調整員 2名 休日開室人件費含む	
子ども文庫家賃	115,200 円	213,236 円	99/1月分-2000/9月分	
調査・調整員派遣費	270,000 円	253,064 円	東京メンバー1回 1名	
通信費	180,000 円	79,249 円	当プロジェクト該当分(全通信費の12%)	
子ども文庫 学校図書室 計	4,230,000 円	3,473,364 円		

●人材教育プロジェクト				
専門家派遣セミナー費	1,608,000 円	1,641,502 円	5月に開催(ヴィエンチャン・ルアンパハン・ホリカムサイ)	
石原奨学金		352,582 円	教員養成学校学生奨学金 2000年継続中	
ヴィエンチャン「青年の城」援助金		35,282 円	運営費支援	
現地スタッフ日本研修費	480,000 円	1,013,067 円	現地スタッフ3名 日本にて研修	
通信費		72,645 円	当プロジェクト該当分(全通信費の11%)	
人材教育プロジェクト計	2,088,000 円	3,115,078 円		

●特別プロジェクト				
日本青年会議所東海GTS		1,710,547 円	学校補修プロジェクト	
特定小学校図書教材購入費		23,070 円	指定寄付(ホアイホン小他図書教材購入費)	
通信費		39,624 円	当プロジェクト該当分(全通信費の6%)	
特別プロジェクト 計		1,773,241 円		

●その他				
イベント経費	2,400,000 円	816,924 円	イベント食材費・経費等	
頒布品仕入		178,035 円	絵はがき・布製品等買入費用	
その他 計	2,400,000 円	994,959 円		

2. 会の運営(プロジェクト管理)	予算	決算	
<東京事務所経費>			
事務所経費	480,000 円	565,000 円	家賃(水道光熱費共)・諸会費・交際費
通信費	120,000 円	97,691 円	国内外電話 郵便代(プロジェクト該当分除く)
運搬費	100,000 円	244,228 円	ラオスへの図書等輸送料、紙芝居購入者送料等
事務経費	260,000 円	350,759 円	事務用品費・記録費・消耗品費・修繕費・リース料
広報費	700,000 円	795,166 円	ニュースレター発行、パンフレット印刷等
人件費	3,150,000 円	3,027,520 円	スタッフ2名給料・交通費・研修費
備品購入費		120,435 円	ノートパソコン購入費
雑費	100,000 円	192,690 円	為替差損・手数料・寄付金・会議費等
東京事務所経費 計	4,910,000 円	5,393,489 円	

<ラオス事務所経費>			
事務所経費	130,800 円	359,954 円	事務所家賃・水道光熱費・修繕費・雑費
通信費	14,400 円	54,203 円	国内外電話 郵便代(プロジェクト該当分除く)
事務経費	127,200 円	162,304 円	事務費・備品消耗品費・記録費・広報費
人件費	288,000 円	344,326 円	スタッフ1名、プロジェクトスタッフ厚生費
交通費	50,400 円	62,331 円	スタッフ・補助員バイクガソリン代等
支払手数料		239,795 円	送金受取手数料等
ラオス事務所経費 計	610,800 円	1,222,913 円	

<その他>		
予備費	155,600 円	0 円
その他 計	155,600 円	

□支出合計	29,950,000 円	29,804,903 円	
□当期収支差額		1,127,923 円	
□次期繰越金	0 円	9,253,526 円	指定プロジェクト援助金前受金・費用未払い分含む

## 2000年の計画

絵本（識字）をキーワードに、本づくり、作家育成、学校図書室運営、子どもの自己表現と様々なプロジェクトに取り組んできた ASPBは、今、克服しなければならない、いくつかの課題を抱えています。

それは、事務局のキャパシティ不足によって、事務遂行や意思決定が遅れることがある。英語やラオス語の能力不足によって、東京とヴィエンチャン事務所とのコミュニケーションが十分でない。専門能力が不足している。などです。

それによって例えば、支援者に約束したス

ケジュール通りに出版が進まなかったり、プロジェクトの現場で、カウンターパートに企画意図がしっかり伝わっていない、といったことが起きています。

これらの点を改善しないことには、事業の質を確保することはできず、プロジェクト地の人々に対して、支援者に対して、責任を全うすることはできませんし、運動の輪を広げることにはできません。こうした壁を乗り越えるため、私たちは活動のあり方を探り、2000年以降の方針を立てました。

### ■活動の基本方針■

ASPBの活動のねらいは、子ども自身が自らの意志で情報を収集して世界を広げ、自らを表現する能力を高めること、それによって自らの人生を選択していくことができるようになることです。人生を選択するチャンスを「北」の人間ばかりが享受するのではなく、だれもがチャンスを手にするべきだという思いが私たちにはあります。

2000年度は、以下の方針で活動します。

#### (1)現地主体による事業運営の確立を促進

各プロジェクト、とくに子ども文化センターについて、ラオス側の主体による運営への移行を徐々に進め、安定した運営の確立をめざします。人材の育成に力を入れ、一部で始まっている自主財源開拓の取り組みを支援していきます。

#### (2)調査と評価にもとづいた活動

これまでプロジェクトは現地の要請に応える中で、結果として規模を拡大してきました。こうした既存のプロジェクトの調査・評価を行い、あらためてラオスの社会と子どもたちにとって、何が本当に必要なかを把握し、それに応じたプロジェクトを構築します。

#### (3)日本の組織運営体制の確立

日本におけるASPBの組織運営を強化し、意思決定と実務遂行のスピード化を図り、現地プロジェクトの進行と成果に責任ある体制で臨みます。活動への参加機会、参加者の拡大を図り、組織の担い手の育成にも取り組みます。

### ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会 2000年度役員

代表：チャンタソン・インタヴォン  
事務局長：森 透  
事務局長代理：野口朝夫  
会計：風間美苗  
総務：赤井朱子、小川直美  
監査：小沼千秋  
顧問：小沢有作、越田 稜、長野ヒデ子、  
やべみつのり、わかやまけん

ASPBラオスの子どもに絵本を送る会では、2000年の総会において、新しい人事が承認されました。事務局長代理が交代し、また、これまでも専門家としてラオスの人材育成に協力して下さっている長野ヒデ子さん、やべみつのりさん、わかやまけんさんが顧問として加わりました。



## ■2000年度予算

■前期より繰越	6,000,000円	(プロジェクト未払い含。1999年決算終了前の概算)
■収入の部		
一般寄付	3,500,000円	個人寄付中心 プロジェクト指定がない寄付
指定募金	1,500,000円	プロジェクト指定募金 個人
プロジェクト援助金	15,500,000円	助成金等、団体によるプロジェクト指定の寄付
イベント収入	1,600,000円	正月パーティ参加費 イベント物品売上げなど
雑収入	400,000円	図書・絵はがき売り上げなど
収入合計	22,500,000円	
□収入合計	28,500,000円	
■支出の部		
出版	5,520,000円	創作絵本、再版図書、環境教育絵本の出版、 『文字絵本3』 編集・印刷
絵本作家育成	2,686,800円	『絵本づくりハンドブック』制作、セミナー開催、 コンクール開催など
移動図書箱 図書袋	5,784,000円	箱・袋製作、配布、セミナー、図書購入、 事業評価会議運営など
統括管理	1,028,160円	通信費、現地コーディネーター人件、 プロジェクトスタッフ費用など
子ども文化センター	3,367,200円	ポリカムサイ、サイヤプリ、ルアンパバン、ヴィエンチャン
子ども文庫・学校図書室	3,108,240円	
東京事務所経費	4,720,000円	
ラオス事務所経費	847,440円	
その他	1,438,160円	
□支出合計	28,500,000円	

## ■事業計画

### (1)出版プロジェクト

ASPBIは「出版センター」として、良質な絵本を増やし、つくり手、編集者を育成する。

#### ●10種 総計約50,000部を出版

(前年度に編集し、発行を持ち越した作品を含む)

- ・新刊子ども向け図書 3種 各5,000冊
- ・子ども向け図書再版 3種 各5,000冊
- ・『文字絵本3』 5,000冊

『文字絵本』シリーズ3作目。

99年度に絵を公募し、15点を採用。

- ・環境教育の絵本 3,000~5,000冊
- ・民話絵本コンクール(3月にセミナーを開催、4~7月作品募集)の優秀作品を出版。

### (2)「読書推進運動」の支援

#### <システムづくりのための支援>

図書箱・図書袋、学校図書室、子ども文化セン

ター(図書室)を総体として捉え、読書推進運動の再構築をめざして、システムづくりに取り組む・子ども文化センターを読書推進運動の地域センターに・学校図書室を図書箱・図書袋校ネットワークの地域拠点に

#### ●「読書推進運動」評価会議の運営支援

ラオス国立図書館が7月に実施する評価会議の運営に、ASPBIはカウンターパートとして参画。

#### ●地域拠点校の設置：2地域(2校)

ヴィエンチャン特別市とサイヤプリ県で1校ずつ地域拠点校を選び、箱・袋配付校とのネットワーク形成をめざし、通信費、印刷費、記録費、事務用品費、交通費等を支援。図書の相互貸借やノウハウの共有、情報交換などを通じ、利用の活性化と、将来の自主運営へ向けた活動を促します。

#### <図書箱・図書袋、学校図書室プロジェクト>

配付・開設時セミナーの内容を充実させ、子

もたちへの多様な働きかけを可能にする 既存校へのフォローアップを充実させ、読書の定着と活性化を図る。

#### ● 図書箱・図書袋 配付プロジェクト

- ・ 図書箱(70箱、70校)、図書袋(120袋、60校)を製作、配付。3県、総計約21,500冊を配付。配付時、教員を対象に研修を実施。
- ・ フォローアップ：6県300校を対象に補充図書各約150冊と図書補修材料、文具などを配付。

#### ● 学校図書室（ハックアーン）

- ・ 教員養成学校に図書、教材を補充 8校
- ・ 学校図書室の新規開設支援 4校
- ・ フォローアップ 43か所

#### ● 子ども文庫

ASPBのラオス事務所に設けられた子ども文庫は、担当スタッフが絵本の読み聞かせや紙芝居のほか、遊戯やゲームを行うなど、子どもたちとふれ合う実践の場であり、近隣の子どもの遊び場でもあります。今後は全国の学校図書室の情報センター・研修センター、また子ども向け図書の出版を志す人のための資料センターとしての機能も徐々に充実させていきます。

### (3)子ども文化センター（CCC）

ヴィエンチャン、ポリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバンの各CCCの運営を支援。図書室を活性化、読書推進運動の地域センターとしての可能性を探る。自立をめざし、経済面の支援からソフト面の支援へと移行。地域へ波及しつつある活動をノウハウの面で支援。

CCCの自主運営をめざし、本年末を目途に、経済面の支援からソフト面の支援へと段階的移行をめざします。今後は政府や自治体など関係機関に働きかけ、CCCの各県担当官やスタッフの運営能力を高め、新しい財源を探していきます。

一方、各地で独自に子ども文化センターの活動が始まっています。ASPBは資金的な支援は行わず、運営ノウハウや職員の研修などの面でバックアップしていきます。

#### ● CCCの施設管理、プログラム運営支援

- ・ 管理スタッフ人件費、教室指導員人件費、運営経費を支援。

#### ● 活動の質的向上のための支援

- ・ 図書を補充し、蔵書2000冊以上を維持。

- ・ サイヤブリCCCでの職員研修の運営費を支援。
- ・ ラオス事務所から各CCCへ現地調整員を派遣。
- ・ CCCの活動や運営に対するアドバイスを行う専門家を派遣。

#### ● CCC間の連携と、地域ネットワークの促進を図るための支援

- ・ 各CCCを調整するための中央CCC担当官へ人件費を支援。
- ・ 各CCCを拠点とし、青少年ボランティアが参加しての県内活動を支援。
- ・ 各CCCのニュースレター発行費用を支援。

### (4)ラオス事務所

責任者のマネジメント能力、スタッフの専門能力の向上が課題。本部機能を現地に移転する可能性を見据え、組織としての能力向上を図る。常駐の日本人スタッフの派遣をめざします。よりコミュニケーションを密にすることによって、相互にマネジメント能力を高めていきます。

### (5)東京事務所

「片手間ボランティア」からの方向転換。組織的運営の確立・人員の強化・参加の拡大・自主財源の拡充。

#### ● 組織の強化

- ・ 事務局長の専従・有給化も含め、マネジメント能力の向上を図る。
- ・ 意思決定機構と責任の明確化を図り、NPO法人化を視野に入れた体制の見直しと検討を実行。
- ・ 日常業務を見直し、アルバイトやボランティアスタッフの活用で効率化と迅速化を図る。専従スタッフはプロジェクト運営や資金調達に注力。
- ・ 自主財源を開拓し、自己資金比率を向上。
- ・ 東京事務所移転を検討。

#### ● 情報発信の強化

ホームページ開設。英語版の活動概要作成。ニュースレターの充実。

- 絵本、編集、美術、音楽などの分野で専門家とのネットワークを充実。

#### ● 国内事業

「絵本2000冊運動」の早期達成。ASPBの特色を活かした収益事業で自主財源確保。テーマを絞ったスタディツアーの実施。

## 村の民話を絵本にしよう 「民話絵本づくりセミナー」

ASPBは今ラオスで一般の人々を対象に、「民話絵本コンクール」を実施中で、優秀作品の出版を計画しています。その一環として、地球市民財団の支援により、応募希望者向けに「民話絵本づくりセミナー」を開催しました。以下、ダイジェストでお伝えします。

### ●民話はどこにある？

「ふだん、昔話を聞くことはありますか？」と聞くことから始める。

中学生：「以前、チャンパサックに住んでいたとき、友だちの家にみんなで泊まりに行き、おじいさんに話してもらいました。ヴィエンチャンに来てからは、そういう機会はありません」

男性：「眠れないとき、母が聞かせてくれました」

男性：「おばあさんが家に来たときに話してくれるのを聞きました。今でも話してくれます。いろいろな話を聞きたいのですが、おばあさんが覚えていないので、一つの話は何回も聞いています」

「聞いた」と答えたのは30人中7人。だんだん減っているのだろう。だからこそ、手遅れにならないうちに絵本にしましょう、と呼びかける。

### ●絵本『ぐりとぐら』の人気の秘密

子どもの心をつかむ絵本とは。講師を務める絵本の編集者、井上さんは、40年近くもロングセラーを続ける日本の絵本『ぐりとぐら』を紹介。スタッフが読み聞かせする。2匹のネズミが大きなカステラを焼き、集まってきた動物たちとみんなで食べるという話。参加者の感想は、ほぼ全員が「面白かった」。

「みんなに食べてくださいという、けちでないところ」「大きい道具を持ってきて作る場所」「最後の場面で、卵のカラを車にするアイデア」などが面白かったという。

井上さんは、作者がいかに子どもの心をつかんで作品を作り上げているかを語る。

### ●教訓をどう扱う？

参加者に、自分の知っている昔話を語ってほしいと依頼。中学生の女の子、学校の先生など3人が申し出る。欲張りな嫁が姑を殺し、鳥になってしまう話。賢い亀が村長の娘の心をつかみ、結

### ＜セミナーの概要＞

日程：2000年3月18、19日 ASPBヴィエンチャン事務所

参加者：一般から約30名

講師：井上(山田)博子[編集者(福音館書店)]、ドゥアンドゥアン[ASPB出版コーディネーター(作家)]

ゲスト：オートン[編集者(情報文化省)]

進行：森透[ASPB]

プログラム：

1日目 ■民話と民話絵本の世界へ講義、民話の語り

■絵本について…講義、絵本の読み聞かせ

■ワークショップ…グループに分かれて民話絵本作成

2日目 ■ワークショップ(続き)…発表、講評

婚する話。面倒くさがるの蛇が自分の尻尾をごはんにして、ついに頭だけになってしまう話。どれも面白い。参加者に感想を求めると、「嫁と姑は仲良くしなければならぬ」「貧しくても知恵で成功は勝ち取れる」といった教訓が返ってくる。

井上さんと森は、教訓は作者が書き加える必要はなく、子どもが自分で感じるにまかせるべきという意見だ。しかしラオスの人々は教訓がなければどうも落ち着かないといった様子だ。

### ●絵本作り

作家のドゥアンドゥアンさんが語る昔話をもとにグループごとに24ページほどのミニサイズのラフスケッチを作る。それを壁に貼り、批評する。編集者のオートンさんから「導入部が冗長でヤマとなる部分がもの足りない」、井上さんから「祭りの場面は村全体の様子がわかる絵も一枚ほしい」、参加者からは「ラオは米を蒸すがモンは炊く。この絵は誤り」といった意見が次々と出る。

\* \* \*

このようにセミナーは活発に行われ、2日間の日程を終了。参加者は「民話絵本コンクール」への応募に意欲を高めました。

